



(社)芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2008・7 夏号 No.6



メールアドレス ashiya@sjc.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.sjc.ne.jp/ashiya/>
TEL 0797-32-1414 FAX 0797-31-9223

真夏の饗宴 潮芦屋ビーチの花火(平成19年8月11日)
撮影 笹部成雄(会員番号873)

ルナホールで3回目を迎えた通常総会



議長の高津会員



林理事長から永年表彰を受ける一瀬、青田、山田、山本の4会員



司会の松下会員



拍手に包まれた満員の会場

「自主・自立・共働・共助」の精神で一層の飛躍

会場をルナホールに移し

て三度目の通常総会が、新緑の5月23日に開催されました。会員数が600名を超えた今年は、268名の会員が参加、委任状提出は280名となり、総会が成立しました。

林理事長を始めとして、山中市長、畑中市議会議長、山田県会議員他のご来賓の挨拶が続きました。

永年会員表彰は紅一点の青田会員を含む6名が受賞されました。

議事は、高津議長の手馴れた進行と、事務局の明快・丁寧な説明のお蔭で、式次第に従ってすべての議案はスムーズに満場一致で採択されました。

昨年20周年の成人式を終え、会員の自発的な各種の活動の舞台が大幅に広がった今、会員数660名以上、契約金額3億円以上という新しい目標に向かって、第一歩を踏み出す素晴らしい総会とな

りました。

議事終了後「安全講習会」が行われ、今年こそ無事故・無違反運動がそれなりの成果を上げられるよう、安全に対する意識改革の機会となりました。

また、支柱のライトが三段階に変化するフラッシュライト傘を、宮内職員が披露。雨の夜など、交通安全に役立つよう出席者全員に配られました。

市民センターに場所を移した懇親会では、飲み物を片手に料理を囲み、日頃のストレス解消に大いに役立ったことでした。

平成20年度安全標語

優秀

一瞬の気のゆるみが

事故のもと

(森 光雄)

入選

思いやり譲り合う心で

事故防ぐ

(笹部成雄)



フラッシュライト傘の披露



安全委員会から発表された今年の安全標語

住宅用火災警報器
取り付け事業

視察問い合わせ引きも切らず

「事業のきつかけは？」

「男女ペアで各戸を回る利点は？」

「何組ぐらいのペアで取り組んでいるのか？」

「一日に何戸ぐらい取り付けられるか？」

「今までに取り付けた個数は？」

「各自治会との交渉の方法は？」

「取り付け後の苦情トラブルは？」

などなど。住宅用火災警報器取付業務についての他市からの主な質問です。

芦屋市シルバー人材センターがこの業務に取り組んでから、高知市など8市のセンターの来訪を受けました。

近隣のセンターとの交流は通常のことですが、一つの事業だけを目的にした全国各地からの視察、研修は珍しく、各シルバーの新しい業務への取り組み方の並々ならぬ熱意の現れでしょう。

また、電話による問い合わせは引きも切らず、北は富山県から、南は九州の福岡県まで全国から約30件と、あらためて当センターの業績の大きさが感じられます。

見事なタイピングとアイデア



高知市シルバーからは18名の

訪問がありました

アで発展を続けるこの事業が評価され、芦屋市シルバー人材センターの活躍ぶりが注目されるのは本当に素晴らしいことです。たくさんさんの質問の中でも、特に驚かれたのは、千件以上の受注の中、苦情・トラブルがほとんど無いことでした。また今年度は自治会組織だけでなく、マンション管理組合からの発注も増えています。ちなみに、現在までに約1000世帯で200個以上の警報器が、芦屋の街を見守っています。

他市シルバー人材センターからの視察研修

平成19年 4月	三田市	シルバー人材センター
5月	川西市	〃
8月	田辺市	〃
	相生市	〃
9月	泉大津市	〃
平成20年 1月	東近江市	〃
	高知市	〃
2月	西宮市	〃

強化を推進

生活支援 委員会



委員長
西山 吾郎

委員 6名

適正就業 推進委員会



委員長
中原 伸二

委員 5名

安全 委員会



委員長
酒井 淳

委員 9名

無事故運動365、みんなで達成しよう！

安全委員会は会員の事故防止、安全就業の観点から年5回の会議を開催し、安全標語の選定、総会等で行う安全講習会の内容を検討協議しています。

また、会員就業場所の安全パトロールを実施し、会員の安全就業を推し進めています。

7月は安全就業強化月間を実施、9月には芦屋市や消防局と連携して、救急の日の催しに協賛、健康講座・講演への積極的な参加を促しています。

無事故・無違反運動チャレンジ100には会員10名を選抜し、毎年挑戦しています。

今年も、「無事故運動365」と銘打って、一年365日連続して、会員の傷害事故、賠償事故、交通事故ゼロ目指し頑張っているとあります。

安全、無事故は他人に任せず、それぞれ自分自身の手でしっかりとつかみましよう。

高齢法に定める適正就業の推進

当委員会の目的は、皆さんの適正就業及び安全就業並びに公平な就業機会を確保することにあります。そのために就業に関わる調査・検討・推進と、各種基準の作成、苦情への対応などを五人の委員で担当しています。

近年、会員数、契約高が大きく伸びてきました。嬉しいことですが、一方で就業条件に対する不満や問題点の増加も予測されます。

今後一層、皆様のお知恵とお力をお借りして明るく楽しい公平な環境作りに励みたいと考えています。なお今年度新しく、就業に関すること等の「提案箱」の設置なども予定していますので、よろしくご協力の程、お願いいたします。

勉強会やチーム作りで前進を

生活支援委員会では、芦屋市がシルバーに求めている子育て支援の活性化を図るため、今後継続的に育児支援の勉強会をしようという話し合い、前進して行きたいとおもいます。

また、高齢者の家事援助が求められる現在、先ず、家事サービスに携わっている会員が、「どの地域にどれだけの人がいるのか」という分布図を作成して、どの程度の仕事が受けられるのか、具体的にチームを作れば理想的だと話し合いました。

組織の運営

広報委員会



委員長
笹部 成雄

委員 7名

企画委員会



委員長
山本 徳高

委員 5名

事業委員会



委員長
横山 襄

委員 6名

会員活動や福利厚生に関する委員会です

私たちは「会員主導型センター」を目指して、会員活動の活性化や会員の福利厚生に関する活動をしています。会員活動としては、昨年の20周年記念事業や、毎年の通常総会の開催、二回の会員研修バスツアー、会員のボランティア活動の推進などです。福利厚生では、昨年試みた会員の体力測定会や祭り、運動会などへの参加のほか、今年は同好会活動を活発にしたいと考えています。「山歩きの会」、「歩こう会」、「マージャンの会」、「カラオケ同好会」など皆さんの興味が多い企画の充実を目指します。楽しい親睦の会を作って行きましょう!!

会員増強・就業開拓・独自事業が三本柱!

この委員会の担当業務は、①会員の増強及び就業開拓に関する事、②独自事業に関する事、③他の委員会の所掌に属さない事項に関する事、ということ、実に広い範囲で様々な事柄を検討しています。当センターにふさわしい新たな独自事業を模索し、他シルバーへ調査研究のための視察を行ったり、会員増強のための効果的な方法の検討、また今後は一般労働者派遣事業の検討など、課題は山積みです。

芦屋市シルバーが地域における元気な高齢者のためのワンストップセンターとなるよう頑張っておりますので、皆様のご協力、応援をいただきますようお願いいたします。

新PR誌のネーミングを募集

嬉しいことに委員が一人増え、七人になりました。広報の担当が「はつらつ芦屋」のほか新たにPR誌の発行など、守備範囲がますます広がるので心強い限りです。

新PR誌は、オールカラーでシルバーの業務と活躍ぶりを紹介。年一回、芦屋市の全戸に配布して、新しい会員・発注者の募集も呼びかけるものです。

これから団塊の世代を迎え、会員の増加が期待される中、業務の拡大と新たな発注者の開拓も非常に重要です。市民にアピールできるステキなPR誌にするため、インパクトのある表題(ネーミング)を募集します。ぜひお知恵を貸して下さい。事務局までご一報を。



楽吟集

宮本 允子
(会員番号26)

世間では唐突に「後期高齢者」という言葉が生まれ、イヤが上にも年齢を意識するようになりました。わが亭主など「後期の上は終末期か！」と、えらいご立腹です。高齢を詠むのは、あまり楽しいことはありませんが。

前向きで気力充分四十代
脳力体力ああ七十代

やる気は充分、口は他人より達者です。でも階段や坂道にため息し、記憶力は坂道を転がる如く落ちていきます。

「アレ」「コレ」「ソレ」と代名詞
駆使して弾む夫との会話

正しい名前も出ないまま、亭主との会話は成り立ちます。さすが、五十年のお付き合い。

街中のウインド鏡に目をそらす
老いの影ひくわが容姿なり

自分では颯爽と歩いているつもりが、鏡は正直なものです。がつくりきて、余計に背中を丸めてしまいう。そう。

まだ少し先があるよな心地して
押し入れ整理先延ばしおり

夜の計報や知人の病気を聞くと、明日は我が身かと思いつつ「イヤ、まだまだ」ともう一方の心が囁く。

シーズンオフバーゲンの服買いに行く
来年はまだ生きてるつもり

これだから、のほほんと暮らしていけるのですねえ。

優先席股広げたる若者よ
よろけたふりして踏んだらかと思う

シルバーシートでピコピコメール打つ娘、狸ねいりの若者にムカつく。けど「おばあさん、どうぞ」と席を譲られても嬉しくはない可愛げのないワタシです。

”ひろば“に川柳を



最近の日本は七十五歳を前後する我々シルバーにとつて、まさに姥捨てとも言える世情です。このやりきれなさに対抗するため、せめて川柳でも創り、日ごろのうっづんを晴らそうではありませんか？

短い文章に、ユーモアを込め、世相のゆがみをさりげなく揶揄する川柳。世直しの一步として会員の皆様のご寄稿をお待ちしております。ペンネームでも結構です。



森脇 一成
(会員番号613)

もう古いおかん母べえに進化する
温暖化ガソリン黄砂次は何
小浜市の一票ほしいオバマさん

好記高齢者
(会員番号873)

選挙惨敗そんなの関係ない総理
改革を叫んで姥捨てよみがえり
難しいことはパンダでパー

鳥瞰子
(会員番号557)

燕の巣おとしてベンツ守る街
まとまらず駄じゃれとびかう川柳会
朝食が喉につかえる朝の記事

中古車
(会員番号730)

梅雨近し愛車は今日も泥バック
前の家年金なのに新車来る
粗大ゴミ朝出したのに夜帰る



20周年記念誌の感想

記念誌についてお二人の会員から感想文を戴きました。

神井 正光

(会員番号810)

設立20周年記念誌「さらなる飛躍」は、20年間の記録を一堂に纏めた小冊子で、しかもカラー印刷は立派な出来栄と言えます。記念誌部会の皆様方には感謝の他ありません。

特に会員活動の写真は仕事の内容が理解できませんが、全体ではないと思います。また、会員の声の記事でも、多種にわたったの思考観が色々伺えますが、全員から見れば僅か40名位で、ほんの一部と思えました。

欲を言えば、名前や写真が出ていない会員のことを考え、最後のページを増やして、会員名と就業先企業の判り一覧表があれば、昔を振り返った時に思い出の一頁が、懐かしく感じるのではないのでしょうか。

森本 哲

(会員番号1130)

芦屋川の桜も盛りをすぎ、川底から葎が勢いよく芽吹く季節となりました。

先日は設立20周年記念誌を配布していただき有り難うございました。丁寧な編集の立派な記念誌で、制作に携わった委員の方々は本当にご苦労様でした。厚くお礼申し上げます。

このビッグイベントを成し遂げられた熱意をもって、芦屋市シルバー人材センターの各部門で、さらなる飛躍をめざし頑張ってください。

探鳥しませんか？

芦屋川のカワセミ

バードウォッチャー提供



カワセミは写真のように艶のあるブルーの体に、腹はオレンジ、のどが白色の美しい留鳥。くちばしは長く、頭は大きい尾は短い。体長は約17センチ。河や湖などの水辺に住み、空中静止や枝からダイビングして小魚を捕らえる。数は少ないが、奥池や芦屋川などでも見る事が出来る。

毎朝登山児

(会員番号410)

ポケ防止気にとめながら又忘れはや十年健康のためだけかしら太陽光資源高騰はてわが家は？

若白髪

(会員番号1039)

PCの良いメールと勘違いパソコンも風邪を引くのかウィルスでドラッグと言われて取り出す薬箱

汲古舎

(会員番号844)

鶴千年後期高齢まだ青年百までは後期高齢などいうな

モニカ

(会員番号1024)

シルバーは後期高齢関係ねー何もかも値上がり軽きわが財布族議員君らは年を取らぬのか夏きたる薄着まぶしく目をそらす

ワーク・ア・ラ・カルト

コープデイズ

コープデイズ
芦屋の食料品売
り場で、週3日
間午前6時から
10時まで「食品」
の補充を行なっ
ています。

「食品」と
いっても
「生物」で
はなく主
に加工食
品ですが、

菓子・醤油・つゆ・ラーメ
ン・茶・缶詰・調味料・ス
プ・カレー・油・酢・ドレツ
シング・コーヒーなど広範囲
にわたっています。

私は最初の頃、補充といっ
ても品数が多く右往左往す
る日々が続きましたが、今
では「物」を一寸見ただけ
で場所が分かるようになって
いるから不思議です。

2年近くも早起きして午
前5時半に出かける生活を
していますと身体も慣れま
したし、以前にも増して元
気になったと喜んでいきます。
そしてシルバー会員になっ

て一番よかったなあと思うのは、
経験豊かな素晴らしい多くの会員
さんと知り合い・出会えたこと
ではないでしょうか。

河村 豊夫 イクオ
(会員番号1146)



粋・すいーつ

女性パティシエの店

ル・シヨコラ

芦屋のグルメ



ふわふわのチョコレートケーキ
でひと味違う「シヨコラ・レジエ
370円」しつとりとした食感で、
小麦粉を使っていない「卵・砂
糖・ココアとまろやかで口当たり
のいいチョコケーキ」控えめな甘
さが好ましい。

チョコを知り抜いたオーナーシエ
フ花形さんの苦心の作。祖父が各
地の豆を輸入し、独自の配合でチヨ
コブランドを作っていたから、そ
れをモリモリ食べて育った。阪神
大震災で自宅が全壊し、開いてい
た料理教室を失うという苦い経験

を経て、祖父の形見に愛をこめた
ケーキ屋に転身。ケーキセットは
630円とお得です。ぜひ召し上
がってください。また、フランス
料理やケーキ講習会も開催してい
ますのでお問い合わせください。



定休日 木曜日
芦屋市楠町7-13
TEL 0797-35-2228
営業時間 11:00~19:00
取材 山本徳高



健康の秘訣

足腰鍛えて八十三歳

江藤 銃人さんの巻



私は人並みの健康だと思っ
て、生来元気だったのか小学生の頃
健康優良児として知事賞をいた
だいた。この状態を維持発達す
べく野外の運動を志し、中学の頃
は陸上競技に熱中し、その後は北
アルプスの3000Mクラスの夏山
(槍、剣岳他)に登山し山の魅
力にひかれた。サラリーマン時
代の休日は山野を駆けまわり。退
職後は芦屋登山会で月2回の山歩
き。シルバーにお世話になった
今も月2回の山歩きをしており、
六十余年山野を友にしてきた。

山野を友に

をおとし冷気に接し森林浴と四季
毎に新しいものを発見し、明日に
そなえ体力的には足腰を鍛え
ると思っ
ている。

健康は基本的には常にストレスを
なくし食事の内容と運動のやり方
によって保たれると思う。人生
六十歳、七十歳、八十歳、の節
目に体力は低下する。これを如何
に補つてゆくか。人それぞれ体
質が異なるので一概には言え
ない。よかれと思うものを食
べ行動しこれを継続し人生を楽
しむことが健康の秘訣だと思
う。

私は二度の死機を脱した学徒兵
の生き残り、社会的に色々の体
験をし健康の有り難さを痛感
してきたので、予防医療を行
うため二ヶ月に一回市民病院
のお世話になり、年一回は全
身の検査を受けており大病を
したことはない。

年初には六甲山頂まで登り自
分の体力をたしかめている。あ
と七、八年元気であれば両親の
域に達するの

でそれを当面の目標にしてい
る。皆様のご参考になる点は
少ないと思いますが自分の躰は
自分で磨くしかありません。

お元気で！

(会員番号164)



ペットご披露



私たちは一年前、コープ
リビングの金魚売り場で買
い手を持っていました。
「タンチョウ。出目
金。それから赤」。

老夫婦の声がし
て、別々の水
槽からすく
い上げられ
ました。体
長いずれ
も5センチ
チたらず。
三匹で九
百円也。



今では
15センチに
達し、堂々
一匹前?に。
「いささかメタ
ボよね」と奥さん
は心配顔です。けど、
金魚としては標準スタイル
ですから、ご安心を。
特に小さかった「赤」は、
頭のこぶが大きくなり、風
格がでてきました。

仲良し三匹

食欲の一番は美貌の丹
頂。二番が赤。黒はのんび
り屋ですが、フンはなぜか
抜群の長さ。

朝食はパン、
昼は麺類、主食
は金魚の餌。
飼い主(笹部
会員)が無
類の麺好き
で、和そば
のおこぼれ
は有り難
く、夏のそ
うめんもま
た格別の味
わいです。

「水」の交
換など、まめ
に気を遣って
く
れて快適な日々
でした。しかし6月2日、
元気だった「赤」が突然天
国へ!涙・泪・なみだ・ナ
ミダ・・・。

金魚のつばやき

前期会員研修バスツアーは6月10日、岐阜県大垣市の曾根城公園での花菖蒲見物、岐阜の長良川温泉での懇親会と入湯の旅で、全コースを一同賑やかに楽しみました。

参加者81名は2台のバスに分乗、幸運にも梅雨の中休みの晴天に恵まれましたが、シルバークラブの平素の精進が良すぎたせいか、気温31度という真夏の陽気の訪れに、汗を拭き拭きの一日となりました。

花菖蒲は見ごろ、宴会はお決まりのカラオケ大会、帰りには美濃関物産館で美濃紙や包丁などのお土産をたくさん仕入れ、底抜けに楽しい一日を過ごすことができました。

新種？ 見たことのない大輪の花菖蒲



長良川温泉 ホテルパークの宴会そして入湯



曾根城公園 花菖蒲園でうっとり見とれる



新緑、薫風、そして花菖蒲にうっとり！

長良川の鶴飼船がずらり



熱唱”憧れのハワイ航路“



美濃関物産館の歓迎案内



美濃・関のお土産が重たい



記念誌制作” 築屋ばなし “

この三月、設立20周年記念事業の締めくくりとして、記念誌が発刊されました。

企画から1年半。10名の委員と事務局が通算十八回の編集会議を開催、印刷直前まで内容を練りに練った努力の結晶です。

「会員の創る会員のための記念誌」を主題にアイデアが飛び交うなか（写真左）、各ページに会員



の「声」を組み込むという、型破りの誌面を編集することになりました。

大筋を決めたので一気に進めたいところですが、そうは問屋が卸してくれません。

表紙はすんなり決まったのです。ところが、『芦屋を歩く』など取材対象で意見が交錯。

「ここより、あそこがいい」。

写真の選択やレイアウトも試行錯誤。おかげで奥池から潮芦屋まで撮り直しに走り回ることに・・・。

何とか写真は揃って「ホッ」としたのですが、灯台もと暗し。手近な所なのに大事な風景を見落としていました。

芦屋川の河底をJRの列車がくぐり抜ける、全国的にも珍しい「天井川」を、です。

文章なら簡単。でも、川と線路と一緒に写すには相当な高さが必要です。ヘリコプターの代わりに、隣接してそびえるルナホール目をつけ、許可を得て屋上へ。

非常階段から垂直のはしごをよ

じ登り、柵もない屋根のような所で頑張った甲斐あって、すれ違う電車もドン・ピシャリ。



新聞カメラマンの経験を活かし、表紙をはじめ掲載写真の多くを担当。記念誌編纂のお手伝いが出来たことは、「はつらつ芦屋」と共に、人生の後半に華を添えることになりました。

八十路こえ

デジカメラ一眼ひたむきに

広報委員長 笹部 成雄

編集後記

芦屋市シルバー人材センターでは昨年設立20周年を迎え記念の年でした。この8月は北京オリンピックが開催される年ですが、ミャンマー・中国で正に天変地異の大災害がおきました。隣国の災難に心を痛めますが、少しでも早く復興が進むことを祈るばかりです。

さて、住宅用火災警報器の取り付けについて、各地のセンターからの問い合わせや見学が引きも切らず、芦屋市シルバー人材センターの名は広く知れ渡りました。また「さらなる飛躍」の趣旨にそって、今号では各委員会の活動を紹介。「ワーク・アラ・カルト」はコープデイズでの会員の活躍ぶりです。研修バス旅行は三木新委員が早速取材を担当しました。第7号では、皆様の数多くのご投稿をお待ちしております。

山本 徳高



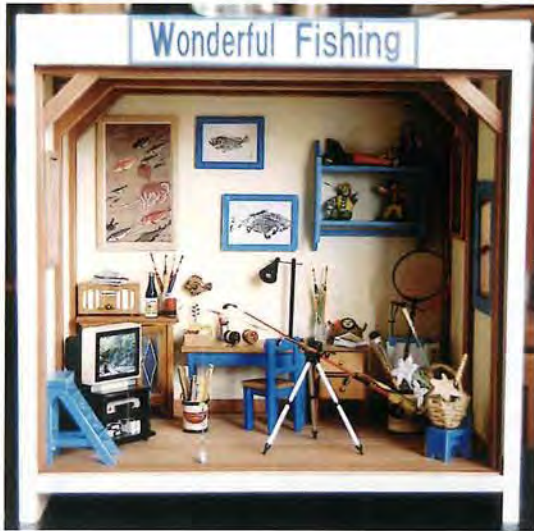
新広報委員

三木 公輔

(会員番号844)

はつらつギャラリー

ドールハウス



制作・似顔絵・文
竹野 勝久
(会員番号841)



趣味は沢山あります。中でもイラストは三千部発行の社内報の表紙を十五年間支えました。ドールハウスを知ったのは定年後です。このミニチュアの世界は、趣味の集大成だと思えました。道具も材料もたいしたものには要りません。コンセプトを決め、図面を描き、毎日コツコツと作ります。

作品からは六十過ぎの高齢者が作ったとは思像出来ないでしょう。

と、思いながら密かにニンマリしている俺は、ほんまに変なおっさんやわ。

